

わかくさ

平成24年(2012年)10月20日発行

機関誌『わかくさ』 第22号

社会福祉法人 栄光会

児童養護施設 若草園

IP7オ 050-3344-8850 Tel (0880)33-0247

Fax (0880)33-0518

〒787-0155 高知県四万十市下田2211

発行：福留久美 編集：瀬戸雅弘



若草園創立55年記念事業

若草園が開設されて今年の7月で満55年を迎えた。これを記念として式典(下)、シンポジウム(上)が若草園の管理棟にて行われた。

また、祝賀会(左)も新ロイヤルホテル四万十にて開催された。

(裏面にも関連記事あり)

ごあいさつ

「感謝」 若草園創立55年式典を終えて

夏の厳しい暑さも過ぎ、秋風は涼しさと一緒になんだか、もの悲しさも運んできたようです。近況として、子どもたち、職員共にこの寒暖差に体調を崩しています。皆様もご注意下さいませ。

さて、8月10日には沢山の方がご参加して頂きまして、若草園創立55年記念式典を無事に執り行うことができましたことを、深く御礼申し上げます。これもひとえに皆様の御協力の賜と感謝申し上げます。ありがとうございました。式典では高知県知事 尾崎正直様(県児童家庭課々長 安岡千真夫様代読)をはじめ、四万十市長 田中 全様よりお祝い、励ましのお言葉を頂きまして、これからの支援の励みにしたいと思います。

また、発行が遅れていました「若草園創立55年記念誌」ができあがりました。沢山の方に想いを寄せて頂きまして、ここにお披露目の形となりましたことを、重ねて感謝申し上げます。

子どもたちは、楽しかった夏休みも終わり、2学期がスタートしました。今年は雨が多く運動会は天候を心配しながらのものでしたが、それぞれの力を発揮して心身ともに一回り大きくなってくれました。秋は文化祭や音楽祭のように行事の多い時期です。それは又、それぞれが自分の力を発揮できる場面もあります。一人でも多くの子どもが、「自信」を着けられるような2学期でありますようにお祈り申し上げます。

園長 福留久美

子どもに関するご相談は…
児童家庭支援センター
わかくさ

Tel(0880)33-0258
24時間365日無料

11月は「児童虐待防止
推進月間」です。高知県でも「高知オレンジボンキャン
ペーン」が県下3会場で
展開されます。くわしくはチラシ
をご覧ください。



乳児のお食い初め
“おいそめ”とは新生児の生後100日頃に乳歯が生え始めるこの時期に「一生、食べることに困らないように」との願いを込めて食事をする真似をさせる儀式。若草園にいる乳児にこの祝い膳を用意してお祝いしました。

伊豆杯カルタ会
毎年初夏には伊豆杯争奪百人一首カルタ会（旧職員の記念杯）、新年には源平カルタ合戦を園内にて開催しています。



子どもたちの様子



下田子ども夏祭り
園、小中学校、保育園との合同行事



下田小学校運動会
お昼休みは職員と共に子どものリクエストによるメニューのお弁当



防災・減災に向けて

〜若草園の取り組み〜

9月2日（日）、下田地区では小中学校も含めて近い将来起こると予測されている南海地震で発生する津波を想定した避難訓練が行われました。下田地区の避難所が若草園の隣にある下田中学校体育館に指定されており、夜間や休日でも対応できるように若草園でもその鍵を保管しています。

昨年発生した東北大地震ではこの地域にも津波警報が発令され、沿岸部には避難勧告が発令され、夜半には多くの地元住民が避難してこられました。中学校の駐車場が満杯となったため、若草園でも園庭を臨時駐車場に開放して対応しました。

5年前に建て替えされた園舎は新しい耐震基準によって設計されており、海岸沿いではありませんが、高台に位置しているため津波の危険性はかなり回避できております。若草園には災害対策保存食が備蓄されており、この事態を受けて避難所の方々にも提供できるようにすこしずつ増量するように取り組んでおります。

下田小学校の学校通信（7月発行）に掲載された在園児童の3年生K・Kくんの作品をご紹介します。

ゆれがきた つなみがくるよ ひなんして



▲中学校の校舎と若草園の管理棟の間にある体育館。若草園とはおなじ坂道で繋がっている。保育園もすぐ下にあり、今年、丘の上に直接上れる避難階段が整備された。

▼若草園は海拔32mに位置する。



Aホームの

サマーキャンプ便り

今年度からサマーキャンプはホーム単位で行うこととなりました。6つのホームそれぞれが独自の計画をしました。この夏は例年になく天候が荒れ、中止になったり予定が大幅に縮小されたホームもありましたが、それぞれに有意義な時を過ごせました。とりわけ、ある男児は今でもキャンプが楽しかったことを思い出して、職員に話してくれていましたので、今回は、このキャンプを取り上げて皆様にご紹介することにしました。



ホームキャンプ

私のホームは小さい子供がいることもあり、ホーム全員でのキャンプが困難な為3人の男の子を連れてのキャンプになりました。まず初めはどの様なキャンプにしたいのか、どこでしたいのかを決めるため、レジャーブック片手に4人で話し合いをし、香川県高松市にて8/1

Aホーム指導員 所谷 英

〜3の日程でキャンプを行うことになりました。台風によりどうなることかと思われましたが、香川の方には影響なさそうであったため決行することにしました。

向こうに着くと設営・買い出しを行い、夕食作りをしたのですが、台風のせいか天気が荒

れ、雨風が強く、その中での夕食作りは思い出に残ったと思います。子供達の提案で、私は手伝いをしないという約束であった為、見ていると3人が協力しあってカレーとサラダを作ってくれました。卓上コンロを使ってではありましたが、3人だけで作れたことはグツと心を打つものがありました。皆で食べた食事は、会話がはずみ笑顔が絶えませんでした。その後雨は止んだので、花火をし、近くを探索しました。夜の公園で遊び、すべり台、おしりがぬれた事も思い出の1つです。一日目の就寝は風にあおられ、寝にくいと思われましたが、疲れていたこともあり、皆グッスリと眠っていました。

二日目の朝は朝食昼食作りから始まりました。この日はメインイベントでもあるレオマのプールに行くという待ちに待った日だったこともあり、撤営・朝食作りも急ぎ足で行い、予定より早く出発することが出来ました。車内にて手作り弁当を食べて、レオマでは一人勝手に歩き回り迷子になるというアクシデントはありましたが、半日十二分に遊びました。その日の夜には、私も疲れきっていたこともあり、夕食ですませ、キャンプ地へと向かいました。設営後は、また花火をして、その後展望台へと向かいましたが、一面の夜景を見渡しながら記念撮影をし皆で明日は帰らないといけないうる感傷に浸りました。私にとっても一生の思い出になったこと、連れてきて良かったことを再確認することができました。

三日目は撤営し管理人へのお礼をした後は家路に着きました。振り返ってみて、こういうキャンプができることは条件がそろわなければ中々行うことができませんが、また機会があれば、遠い地でのキャンプを計画したいと思いました。



小3 K・K

中3 H・G

高3 Y・T



8月1日〜3日の間、Aホームの男三人と、男職員1人の4人で、香川県の方へキャンプしに二泊三日行ってきました。（中略）みんな、自分たちでご飯をたいたり、カレーライスに入れるお肉や、野菜を炒めたり、煮こんだりしました。みんなで協力して、作ったカレーライスと、サラダがすごく美味しかったです。夕食を食べて、片付け終えた後に、みんなでジュースを飲みながら花火をしました。花火がきれいで、楽しくて、ジュースもすごく美味しく感じました。花火でまんきつした後は、展望台の方へ行って、夜景を観ました。展望台から観る夜景は、すごくきれいでした。その後、キャンプ場のしきち内にある公園へも行きました。みんな、すべり台をしておしりが少しぬれましたが、一生忘れられません。（中略）キャンプ場へ帰って、その日も花火をみんなでして、展望台の方へ行って、夜景をバックにして、自分たちも一緒に写真を撮りました。これも、忘れられない思い出になりました。

若草園創立55年記念事業実施報告

2012(H24)年 8月 10日(金)

- ・記念式典とシンポジウム 13:00～17:00 (若草園・管理棟にて) 108名参加
- ・記念祝賀会 18:00～20:00 (新ロイヤルホテル四万十にて) 76名参加

若草園が佐岡ではじめて設立されて満55年になり、創立55年記念事業の主要行事として上記が開催されました。若草園が立地する下田近隣の地域のみならず、関係者のみなさまのご参加により盛会となりました事を感謝申し上げます。

記念式典では来賓祝辞、在園生の作文朗読、園歌斉唱がなされました。



編集作業が遅延しておりました『若草園創立55年記念誌』が10月10日に完成いたしました。講読を希望される方は若草園までご連絡下さい。

▽論語にある孔子が晩年、人生を振り返って綴った言葉。「15にして学問に志す。30にして立つ。40にして惑わず。50にして天命を知る。60にして耳順う。70して心の欲する所に従えども、盲のりを踰(こ)えず」。▽55年の若草園は孔子の言葉を適用すれば、児童養護施設としてのその存在意義を知り、子どもの主張に充分傾聴できるように年代のちようど中間の時代と言う事になる。▽55年を聖書に見ればユダ王国マナセ王の歴代最長の在位期間が挙げられる。中東情勢は今も不安定であるが、当時も隣国からの侵略を受けていた。紛糾するなか講じた手立てにより最悪の王との汚名を着せられた王でもある。その晩年、旧約聖書・歴代誌によれば「彼は神の前に深くへりくだり、祈り求めた時、神に願いが聞き入れられ」国を再興させられた。▽長い時の流れの中には様々なアクシデントは付きものである。しかし原点に帰る事でその目的が再び明らかにされる。55年前に困窮している子どもに寄り添う事から始まったこの福祉事業。いまは物質的よりも精神面でのニーズが高い。子どもの必要に何を私たちは提供していくべきか。子どもの心の叫び声に耳従う歩みだしの創立55年記念であることを祈念したい。(せと)

編集後記



シンポジウムの様子
丹誠をこめて発題するパネラーのみなさん

熱心に耳を傾ける参加者のみなさん